

親睦 (Fellowship)

ロータリーにおける親睦とは

親睦と奉仕は、ロータリーの二本の柱といわれています。しかし、ロータリーは敢えて親睦と奉仕の解釈を、世間一般の人たちが考える解釈と異なる次元に置いています。この二つはロータリー独自の概念であり、これを正しく理解しない限り、ロータリー思想の原理に触れることは難しいと言われていています。Fellowshipを「親睦」と訳したことにも問題があるのかも知れません。むしろ、「連帯感」とか「協調」と訳す方が理解し易いでしょう。「親睦」とはロータリークラブが、クラブとして存続していく上で欠かすことの出来ない必要条件となる、ロータリアン個人個人の心が結合した状態を表す概念なのです。言い換えれば、“Fellowship”はロータリーの引力とも言えます。

“入りて学び、出でて奉仕せよ”

ロータリー運動の実体を、見事に表した言葉として、「入りて学び、出でて奉仕せよ」

“Enter to learn, Go forth to serve”という言葉があります。世の中のあらゆる有用な職業から選ばれた裁量権を持った職業人が、一週一回の例会に集い、例会の場で、職業上の発想の交換を通じて、分かち合いの精神による事業の永続性を学び、友情を深め、自己改善を図り、その結果として奉仕の心が育まれてきます。この例会における一連の活動のことを「親睦」と呼ぶのです。例会で高められた奉仕の心を持って、それぞれの家庭、職場、地域社会に帰り、奉仕活動を実践します。これが理想とされるロータリーライフです。

悩みごとを相談する真の友人こそロータリーの友でなければならず、それを可能にするためには、ロータリーの友情即ち親睦を更に高めなければなりません。もし、事業不振のため退会を余儀なくされる会員がいたとすれば、そのクラブにはロータリーの親睦がなかったことを証明することになるのです。職業上の相談はどんなことでもクラブ内の友人に相談できる。どんなことを相談しても、自分のマイナスになって返ってくることは絶対はない。これが可能なクラブのことを、親睦のあるクラブと言います。その前提となるのが一人一業種制度なのです。

親睦活動 (Fellowship Activities)

ロータリークラブの会員の中にも、親睦と親睦活動を混同する人が多いようです。親睦会やゴルフ会に参加することは親睦活動に参加することであって、親睦とは違った次元のものであることを理解すべきでしょう。

親睦活動がクラブ奉仕の充分条件の範囲内で、親睦というロータリー本来の運動を高めるために補助的に活動することは大切なことです。しかし、親睦活動委員の任務を、親睦会の幹事や同好会の世話役に留めることは大きな誤りです。確かに会員が心を打ち解けあう手段の一つとして、親睦会やクラブ活動などのレクリエーションも必要です。しかし、親睦を深める最適の場所は、毎週一回の定例の例会であることを忘れてはなりません。例会において、いかに友情を深めるかを考え実行することと、いかにして真の親睦が保たれるような環境を整備することが最大の任務なのです。

丹治年度では、新入会員のうち特に転勤族の会員には親睦委員会に所属して頂きます。これは、新人だから下働きに使おうということではなく、親睦委員として毎例会、会員相互の親睦を深める活動に従事することによって、一日でも早く、古い会員と融和を図ることを期待しているからです。友情溢れる例会を通じて、ロータリアンがお互いに切磋琢磨し、自己改善に努めることで、ロータリーの説く親睦が一層深まり、奉仕の心が高まっていきます。

(文責 丹治正博)